沖縄県における地域振興に向けた新たな付加価値農業への取り組みに関する研究

Study on the approach to new value-added agriculture for rural development in Okinawa

○島袋理央*，酒井一人**，吉永安俊**，仲村渠将**

SHIMABUKURO Rio, SAKAI Kazuhito, YOSHINAGA Anshun, NAKANDAKARI Tamotsu

1． はじめに

2010 年の世界農林業センサスの結果によると、平成 22 年 2 月 1 日現在、農業就業人口は 260 万 6 千人で、5 年前に比べて 74 万 7 千人（22.3%）減少した。 また農業就業者の平均年齢は、65.8 歳となった。さらに、農家及び土地持ち非農家の耕作放棄地面積は 39 万 6 千 ha となり、5 年前に比べて 1 万 ha（2.6%）増加した。この結果からわかるように、現在日本の農業は、農業就業者の高齢化、担い手不足、耕作放棄地の増加など様々な問題をかかえており、農業の衰退が懸念されている。一方、食料自給率の向上を目指しており、農業の持続的発展のために農村地域の振興に取り組む必要がある。

沖縄県の農業を見てみると、全国と同じように農業の衰退化が進んでいる。農業地域である沖縄県北部では、農業就業者の高齢化、担い手不足に伴い耕作放棄地が増加している。農業の衰退は農村地域の衰退につながると考えられるため、農村地域の活性化にどう取り組むかが課題となっている。特に、基幹作物のサトウキビは体制上安定ではあるが高収入が望めないため、他の作物による新しい農業を目指す必要がある。

このことから、本研究では農村地域の活性化に向けた新しい付加価値農業に取り組んでいる農業団体を調査し、同様の取り組みが他地域においても実現可能かどうか検討することを目的とした。

2． 方法

沖縄県北部において任意の農業団体を結成し、農業の振興、地域の振興に積極的に取り組んでいる『沖縄畑人（はるさー）くらぶ』へ聞き取り調査を行い、畑人くらぶの特徴の分析、他地域・他分野への拡大のための課題整理を行った。

3． 結果と考察

（1）沖縄畑人くらぶとは

沖縄畑人くらぶ（以下，畑人くらぶ）は、農業を始めて 5 年以内の新規就農者だけで構成された任意団体である。専業農家としての自立、新規就農者の支援・育成、地域貢献を目的として結成された。主な活動としては、月 1 回の勉強会やイベントへの参加、新規就農者の研修の受け入れなどがある。研修生が独立する際の土地探しのサポートも行っており、名護市内の耕作放棄地だった場所を利用しているメンバーもいる。

（2）畑人くらぶの野菜

畑人くらぶでは、メンバーが個々で栽培した野菜をまとめて、畑人くらぶの野菜として出荷している。出荷先は主に沖縄県外の業者で、畑人くらぶの代表・芳野氏が個人で立ち上げた（株）クッ

*琉球大学大学院農学研究科　Graduate School of Agriculture, University of the Ryukyus

**琉球大学農学部　Faculty of Agriculture, University of the Ryukyus

キーワード：農村振興，付加価値農業

クソニアという農業生産法人が間に入って取引をしている。取引条件として、業者側から畑人くらぶに対しては農薬の使用制限が設けられている。畑人くらぶから業者に対しては、安定した価格での取引が条件とされている（図１）。相場が高くても低くても同じ値段で買い取ってもらえるため、農家は安定した収入を見込める。

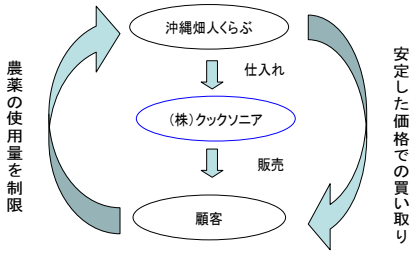

図１．畑人くらぶの野菜の流通

（３）畑人くらぶの特徴

畑人くらぶの特徴として、①流通に強く、販路が確保されている②安定した収入が見込める③新規就農者のサポートを行っている④耕作放棄地を利用している、という点が挙げられる。流通に強いという点は、代表の芳野氏が以前、農産物のネット販売を行う会社に勤めていたため、流通に精通しているからである。販路がしっかりと確保されていることで、農家は安心して営農ができるとともに、安定した収入が見込める。新規就農者の支援や耕作放棄地の利用は、農業の担い手を確保することとなり、農村地域の活性化にも効果的であると考えられる。これらの特徴は、他地域の活性化を考える上でも重要なポイントとなる。

（４）畑人くらぶの課題

課題としては次のようなことが挙げられる。①安定した技術力②安定した供給量③任意団体を今後どのようにするか④畑人くらぶが直接顧客と取引できるようになること。メンバー全員が新規就農者であるため、技術や収穫量が安定させることが課題として挙がった。販路を確保するには、安定した供給量がなければ難しいと言える。

（５）畑人くらぶの活動内容の分析

他の団体への適用を考えた場合、畑人くらぶの活動内容を Table1 のように分析した。畑人くらぶの「新規就農者の開発」を他地域では「新規作物の導入による農業改革」と見たとき、畑人くらぶの特徴である強力な流通管理部門の設立、生産者との協定の設定、生産者との流通部門の信頼関係の構築などが検討課題になると考えられる。付加価値農業による地域活性化のためには、このような課題について地域の特徴を考慮しつつ、地域主体で検討していく必要があると考える。

Table1. 畑人くらぶの活動分析

畑人くらぶ	適用・応用
新規就農者の開発	新規作物導入による農業変革
会員－法人－小売	生産者－流通管理－市場
・法人－小売の交渉・契約 →品質、安定供給、販売契約 ・会員－法人の交渉 →品質、価格	・流通管理部門による市場開拓 ・生産者との協定・取り決め
代表による方向性の決定による柔軟性	流通管理部門の重要性 生産者の柔軟な対応の必要性 →共通の認識、信頼感

４．　おわりに

畑人くらぶは新しい営農形態である。様々な販路を持つことは、専業農家としての自立、農業従事者が安定した生活を送ることにつながると考えられる。耕作放棄地を利用したり、新規就農者の支援・育成を行ったりすることで、農村地域の活性化にも寄与していると言える。畑人くらぶの取り組みは、他地域の活性化にも活用できると考えられる。

今後は、畑人くらぶの取り組みが他地域の活性化にどう活かせるのか、具体的に研究していく必要がある。